

研究者の素顔や生き方、いかがでしたか？

リボンでつながる先輩たちのメッセージから

研究者それぞれの考えや想いが

伝わってきたのではと思います。

この青いリボンが

あなたの未来につながることを願って……

京都大学

男女共同参画推進センター

未来に繋がる

青いリボンのエトセトラ

＝ Vol.7 ＝

— 京都大学を目指すあなたへ —
研究者からの言葉、それは未来につながるメッセージ。



京都大学男女共同参画推進センター





Girls, be Ambitious!

京都大学は自由の学風のもと、研究と教育が連環した研究型大学として、自由闊達な議論の場をつくり、先端的で独創的な研究をリードしてきました。型にはまらないもの見かたや考え方を楽しみ育てていく文化のなかで、皆さんののびのびと好奇心を伸ばし自らの世界を切り開いていけるよう、京都大学は全力で応援します。

京都大学にはさまざまな分野で活躍する女性研究者がいます。分野を超えた交流や新しい出会いのなかで、豊かな時間を一緒に過ごしましょう。

稲垣 恭子

男女共同参画・国際・広報・渉外(基金・同窓会)担当理事
副学長、男女共同参画推進センター長

- 鬼頭 弥生 (京都大学大学院農学研究科 講師)
- 三野 和恵 (京都大学大学院教育学研究科 助教)
- 服部 佑佳子 (京都大学大学院生命科学研究科 助教)
- 澤田 茉伊 (京都大学大学院工学研究科 助教)

- 04 ● 田鶴 寿弥子 (京都大学生存圏研究所 助教)
- 06 ● 鳥井 美江 (京都大学大学院医学研究科 助教)
- 08 ● 京大で学ぶ女子特別座談会
- 10 ● イベント情報

- 12
- 14
- 16
- 18

回り道も悪くない。異なる領域、異なる立場を見渡す広い 視野を持ち続けて。

農学研究科 講師 / 鬼頭 弥生(KITO Yayoi)

きとう やよい 京都大学総合人間学部 卒業→京都大学大学院人間・環境学研究科 中退→同大学院農学研究科 修士課程修了→同大学院農学研究科 博士後期課程修了→同大学院農学研究科 寄附講座「食と農の安全・倫理論」助教→同大学院農学研究科 研究員→同志社大学商学部 助教→京都大学大学院農学研究科 講師
【研究テーマ】消費者行動、フードシステムにおける各主体の意思決定

悩み抜いてたどり着いた研究職

高校生時代は吹奏楽部の活動に明け暮れていました。他のメンバーとともに部内の意思決定にも関わり、しばしば起こった揉め事に頭を悩ませたこともありましたが、当時は自覚していませんでしたが、揉め事の最中には、友人や先輩それぞれの行動原理が気になったものです。すでに人の認知や意思決定に興味があったのかもしれませんが、学業面では、食や環境、生物学に関心があったため、高校の文理選択時には迷わず理系を選択しました。漠然と研究職に就きたいという希望も抱いていました。こうした関心と希望のもとで京大農学部を受験し、食品生物科学科に入学しました。自分自身の興味関心に向き合うきっかけが訪れたのは、大学に入学して半年後の2001年9月10日。日本で初めてのBSE牛が発見され、その翌日には関連記事が紙面に並びました。BSE問題に関して、当初は発症のメカニズムや健康リスクについて知りたいと思い、専門家による科学的な解説等の情報を積極的に収集しました。しかしながら、私が科学的情報よりも強く関心を抱いた対象は、一般市民の意識や行動と、それをめぐる専門家の言説でした。その段階で、自分自身が、食品そのものよりも、食をめぐる人の行動や社会の仕組みを追究したいのだということに気付きました。BSE牛発見の翌日は、アメリカの9.11同時多発テロ



が起こった日。価値観を揺さぶられるような当時の社会情勢のもとで、物事を相対的かつ客観的にみることが重要だということも強く感じました。その後悩んだ末に、2年進学時に総合人間学部へ転学部し、文化人類学分野に身を置き、食品流通過程における人間関係と商品の価値形成について研究することにしました。漠然とした像でしかなかった研究職について、より具体的に考え、それを目指す覚悟をしたのは、修士課程に進学した直後です。具体像を結ぶなかで、農や食をめぐる社会問題に即して研究・議論し、提言していく学問領域で研究者を目指したいと考えるようになりました。そして、再び悩んだ挙句、農業経済学分野に転向しました。

国内外の農業・食料に関わる問題に貢献したい

私が所属した研究室では、農業経営学を基礎としながら、農業経営に影響を及ぼすフードシステムや、食品安全等に関わる制度を扱い、農業・食料分野の経営学の発展を図っていました。かつ、異分野の手法や知見を積極的に採り入れる空気もありました。また、恩師をはじめ、女性研究者・院生を多くかかえる研究室でもありました。それは、研究者を目指すうえで大変心強いものでした。私は異動を経て再びその研究室の一員となりましたが、そうした気風は今も引き継がれています。現在、フードシステムについては、さまざまな論点が示され、多様なアプローチがなされています。その中で私は、フードシステムはその各段階の人や組織の意思決定や行動によって成立し変容しているとの考えのもと、彼ら／組織の意思決定、行動の実態やメカニズムの解明を研究テーマとしています。農業経済学の分野に所属していますが、社会心理学の理論や手法を採り入れ、消費者の食品選択行動や風評行動の背景にあるリスク認知を調査し、どのようにリスクコミュニケーションを進めるべきかを研究してきました。最近では、持続可能なフードシステムを念頭において、生産から消費に至るまでの各段階にある人や事業者が、どのように意思決定を行っているのかについての研究にも取り組んでいます。食をめぐる人の行動や社会の仕組みを明らかにして、新たな知識を生み出すことによって、社会に何らかの貢献ができればいいと考えています。

完璧主義を脱却し、時間をうまく管理する

研究と生活のバランスを保つため、時間を上手に管理するよう心がけています。ですが、きっちり管理するのではなく、完璧主義を脱却し、自分自身のダメなところも自覚しながら、時には自分にあまくするようにしています。人は、最良の結果や完璧な結果でなくても満足できるもの・・とはいえ、研究と教育においては最良を目指しがちになってしまうので、家事については心地よく満足できればいい、ということにしています。

今後の目標は、長い時間軸で考えながら、研究を通して社会に貢献すること。教育においても、将来社会で活躍する学生達に、学術面に限らず何らかのプラスの影響を与えることができたいと思います。異なる領域の研究にも興味をもって学び、自分と異なる見解にも耳を傾けてその立場で考えてみることで、自分の価値観が偏っていないか絶えず考えてみることを常に心に留めて、広い視野をもって自身の立場を問い直しながら、研究を続けたいと思っています。

ESSENTIAL THINGS

紅茶ばかり・・・

摂取する飲み物の7～8割は、紅茶になっていると思います。いろいろな茶葉を試して、楽しんでいます。先輩でもあり共同研究者でもある女性研究者と一緒に、研究・教育の悩み相談をしながらお茶を飲むことも、楽しみの一つです。



私のKey Item

思い入れのある賀茂なす

初めて投稿した論文は、賀茂なすの新旧産地に関したものです。そのこととは無関係ですが、季節になると賀茂なすを買い求めます。他の農産物にも言えることですが、農家さんごとに味も表情(外見)も異なります。その個性を意識しつつ、いずれもおいしくいただいています。



弥生先生のある1日

- 06:30 **起床 朝食**
- 09:00 **出勤**
メールチェック、研究、授業、会議など
- 18:00 **退勤**
- 19:00 **帰宅、家事・夕食**
- 22:00 **やり残した仕事、メールチェックなど**
- 23:00 **就寝**

高校生へのメッセージ

回り道のように見える私の経歴ですが、それぞれの領域で学んだこと、出会った人との交流は、いまの私の研究者としての思考の礎になっていると感じています。若いうちは自分の興味や可能性を決めずかからず、幅広く学び、いろいろな人に出て話を聞いて、皆さんの視野を、世界を、存分に広げていってください。それは社会に出たとき、あるいは研究を進めるうえで役に立つということにとどまりません。皆さんが社会に貢献し社会を変えるための助けとなり、また、皆さんの人生を豊かにすることにもつながると思っています。

自分が取り組む研究をより良いものに、「今やるべきこと」をコツコツと。

教育学研究科 助教 / 三野 和恵 (MINO Kazue)

みの かずえ 国際基督教大学教養学部 卒業→京都大学大学院教育学研究科 修士課程修了→日本学術振興会特別研究員→台湾奨助金受奨学人(国立成功大学)→京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程修了→日本学術振興会海外特別研究員(エディンバラ大学)→京都大学大学院教育学研究科 助教
【研究テーマ】日本植民地期台湾(1895-1945)のキリスト教と反植民地主義ナショナリズム

自分自身の生き方としてキリスト教を考える

小学生の頃から転校が多く、周りに馴染めず孤独を感じる事が多かった中学時代。自転車で40分かかる遠くの高校へ進学したのは、全く異なる環境を求めた結果でした。入学後に膨大な宿題や充実した課外活動に追われ、孤独感を味わう暇はなくなりましたが、どんなに必死にやっても報われない経験をする事にもなりました。好きだった数学の成績があつという間に悪くなり、古生物学者になるべく希望した理系の選択を、担任に「理系に行けば死ぬと思うよ」と言われて諦めてしまいました。一方で、以前から好きだった世界史や漢文・古文・現代文の授業を楽しみ、歴史研究部に所属し、記事を書き冊子を作るうちに、歴史をやってみようと考えようになりました。そこで大学は、歴史学が充実している憧れの京大文学部を、不合格覚悟で受験。第二志望は、私に読書好きになるきっかけをくれた伯母の母校で、リベラルアーツ教育を掲げている国際基督教大学(ICU)でした。京大に落ちたのは残念でしたが、ICUのキャンパスや雰囲気は気に入る、合格後迷わず進学を決めました。ICU入学後に驚いたのは、「教室内では英語しか使ってはいけない授業がある」ということ。英語でのやりとりへの不安はもちろん、より辛かったのは活発な発言・発表が期待されていたことでした。対話より文面でのコミュニケーションの方が安心できる私は、この部分では非常に苦労しましたが、大学の授業はどれも面白く、深く印象に残っています。勉強以外では、授業をきっかけに興味を持った太極拳に熱中したり、大学教会の聖歌隊で活動していました。幼児洗礼を受け、小さい頃から教会に通っていたため、授業や聖歌隊での活動を通して、本格的にキリスト教を自分自身の生き方として考えると同時に、学問の面でも宗教・思想への興味を深めていきました。台湾のキリスト教をテーマに卒業論文を書く一方で、「スコットランド人宣教師と台湾人の出会い、そこにおける摩擦やすれ違い、あるいは相互関係やそれに触発された変容」に興味を持つようになり、京都大学教育学研究科に進学して研究を続けることにしました。

先祖の母国、台湾への思い

母親が台湾人でキリスト者であったものの、自分にとって台湾は「あまりよく知らない故郷」でした。時折祖父母や親戚を訪ねて短期滞在するのみで、当然台湾語も話せませんでしたが、台湾の人々の他人に対するフレンドリーさや、活発さに魅了されまし

た。こうした言語的・文化的な隔たりを超えて台湾のこともっと知り、その社会の中に入っていきたくらいという願望が研究テーマの選択、台湾語やマンダリンの学習の動機となりました。同時に、植民地時代に育った祖父母の経験をもっと知りたい、理解したいという思いもありました。私が高校生の時に他界した祖父は、少年時代の話をよく聞かせてくれました。その大半はいかに日本人の教師や上司に反抗し、言い負かして泣かせてやったのかという話でした。イギリスのインド支配の話になると、「昔は他人の国をとった奴が英雄だったんだよ」と、楽しそうに話していましたが、外来政権の支配を受ける悔しさが窺われるような言葉が印象に残っています。大学院で、台湾のキリスト教史の研究をし、台湾語を学んでいることを祖母に話した際には、「それは嬉しいね。台湾のことを研究してくれる人があるなんて」と言われたことも深く印象に残っています。その時代にそれぞれ医師と教師になった祖父母は、共に教育の機会に恵まれた幸運な人たちであり、日本人の親しい友人も多くいましたが、そうした中でも植民地支配を受けるということで、決定的に傷つけられていたのだということ深く考えさせられました。宗教・思想について考える際に、とりわけこれらが植民地支配下を生きる／あるいは差別的な状況の中で生きる人々にとって、どのような意味を持ち得たのかという問題に関心を持つようになったのは、こうした背景があったからだと思います。

一歩ずつ、着実に進む研究者への道

これまで「研究者を目指す」と意識したことはあまりなく、むしろ迷いながら今やるべきことをやっていく中で、ここまでやってきました。考えを素早くまとめ発言するのが苦手、このまま研究者養成コースを進んでいく資格が自分にあるのかと悩みました。ですが、修士論文を提出し博士後期過程への進学が決まった時に、非常に大きな解放感と励ましを与えられ、研究はたとえ自分のような遅めのペースの人でも着実に継続することで、自分なりの方法で進めていけると考えるようになりました。コツコツ研究作業をしていく中でいつの間にか道が開かれ、徐々に研究者ようになってきたという感覚です。今後は、台湾の地域社会と教会、植民地支配との関係をより細やかに見てゆくこと、そのためにも台湾語の史資料の収集と分析をさらに進めたいと考えています。また、これまでの研究を英語で発信することに努め、日本語以外の言語を使用する研究者とも、より活発に意見交換ができるようになることを目標としています。

ESSENTIAL THINGS

読書・散歩・カメラ

散歩や、研究とはあまり関係ない物語を英文で読むことは、頭が切り換わり良いリフレッシュになります。カメラは散歩の時に必ず携帯し、主に昆虫や草花を撮影して楽しんでいます。



私のKey Item

ココペリのストラップ

陶芸家の妹からの誕生日プレゼント。ココペリとはアメリカ先住民ホピ族の精霊で、豊穡の象徴です。エディンバラで研究滞っていた時には、色んな知らない人たちに「それは何？」と声をかけられ、多くのフレンドリーな会話のきっかけになってくれました。



高校生へのメッセージ

勉強・研究のいずれにおいても、そしてそれ以外のどのような職業や活動においても、あまり自分を比較せず(自他のスタイルの違いの認識は良いことだと思います)、まずは自分なりのペースとスタイルを作りつつ、興味を持つこと、熱中できること、自分にとって大事なことに楽しみながら取り組んでください。必要に応じては120%の力を発揮すべき場面に出会すこともあると思いますが、そういう場合でも思い詰めすぎず、普段は80%の力での作業をキープする時間を意識的に作るなど、心と体の調子を大切にしながら進んでいってください。

和恵先生のある1日

- 09:30 ● メール確認、研究、ゼミ準備・ゼミ
- 12:00 ● 昼食
- 13:00 ● 研究、ゼミ準備
- 16:30 ● 休憩・散歩
- 17:30 ● 自炊・夕食
- 19:30 ● 自宅で研究、ゼミ準備
- 22:30 ● 休憩・読書など

今なお不思議が満ちあふれる生き物の仕組みを、独自のアプローチで解き明かす。

生命科学研究所 助教 / 服部 佑佳子 (HATTORI Yukako)

はっとり ゆかこ 東京工業大学生命理工学部 卒業→京都大学大学院生命科学研究所 修士課程修了→日本学術振興会特別研究員(DC1)
→同大学院 博士後期課程 研究指導認定退学→同大学院 特定助教→博士(生命科学)の学位取得(京都大学)→同大学院 助教
【研究テーマ】 栄養環境と個体成長とをつなぐ分子機構の研究

興味の赴くまま学べるだけ学ぶ

福岡県で育った私は、田んぼや山、川、海で遊ぶ機会も多く、草花や虫、浜辺の生き物など自然に親しみながら成長しました。また、幼い頃から漠然と理系への憧れを持っていました。それは技術者の父から自然科学や論理的思考の重要性を聞かされて育ったからかもしれません。しかし、研究者を志した契機は中学時代にあるように思います。尊敬する友人が高校生で胃癌になりました。癌の原因は何か、細胞はどのように増殖するか、癌になる人ならない人の違いは……。図書館で手当たり次第調べてみても、納得できる答えは得られませんでした。ヒトを含めた生き物の仕組みには、まだ誰も知らない重要なことが山ほどあるのではないかと、それらを自分で明らかにしたい。そんな思いを抱いて県立高校の理数科に進学し、勉強に励みました。大学進学後は生物学だけでなく、数学、物理、化学、情報科学など、興味の赴くまま学べるだけ学びました。そして、自分がこの先どこで何を研究するかを模索し、その中で興味を持ったのが、当時次々と解読され始めていた生物の全遺伝情報(ゲノム)でした。生き物の設計図であるゲノムがどのように使われ発生過程などの生命現象を支えているかを研究したいと思い、大学院では、ショウジョウバエを用いて、神経細胞が細胞ごとの特性を獲得していくメカニズムの解析に取り組みました。

栄養と個体成長との関係の理解を目指して

近年、生命科学分野では技術の発達により、従来の生物学では扱うことが難しい生命現象にアプローチが可能となってきました。そこで、現在注目しているのが、栄養環境と個体成長との関係です。さまざまなものを食べられる種(広食性種)と、特定のものしか食べない種(狭食性種)を対比させることで、広食性種がどのようにして様々な餌を食べて成長できるのかを理解できるのではないかと考え、食性の異なるショウジョウバエ近縁5種を用いた実験を行いました。その結果、広食性種では、栄養条件間で遺伝子発現や代謝を適切に制御する機構が働くことで、様々な栄養バランスの餌に柔軟に適応できていることがわかりました。



それに対して、狭食性種ではそのような機構が働かず、炭水化物の比率が高い餌を食べると、遺伝子発現や代謝産物量の上昇が生じ、成長できないことを見出しました。一方、食べる側のショウジョウバエの解析だけでなく、食べられる側の栄養の解析も行っています。モデル生物であるキイロショウジョウバエは、自然界では酵母や細菌などの共生微生物によって発酵した果物を餌として成長します。そこで、野外で採取した餌や、そこから単離した微生物の解析を行うことで、共生微生物が、幼虫の成長を支える機構を調べています。また、細胞レベルでの栄養への応答として、栄養依存的な神経突起の発達機構についても解析を進めています。

研究を続ける上で大切にしているのは、データと真摯に向き合うこと。また、共同研究者だけでなく、さまざまな分野の多くの人と議論する中で、問題意識を明確にし、新たな視点や手法を柔軟に取り入れながら研究を推進することを心がけています。生き物の仕組みには、今なお不思議が満ちています。生物同士や環境との相互作用の上に成り立つ生命現象と、その原理を独自のアプローチで解き明かし、研究の面白さ・楽しさを大学院生や共同研究者と共有しながら、複数分野をつなぐ新たな研究領域を開拓していければと思います。

子育てを通して広がった研究と生活

大学院修士課程在籍中に結婚し、二人の子どもにも恵まれました。感想は、研究と子育て両方やってよかった!です。何より世界が広がりました。子どもの希望で、虫や魚を捕まえて家で飼い始めたところ、生き物同士や環境との間の相互作用や物質循環の上で命が成り立つ様子を目の当たりにし、現在の研究テーマに非常に大きな影響を与えてくれました。また、子どもを通じて、理系以外にも様々な人たちと出会い、楽しい時間を共有することもできました。周囲の協力で支えられながら、完璧を目指さず、自分ひとりで抱え込まず、なるべく毎日同じリズムで生活することを心がけて、研究と家庭生活とを両立させています。

時間的、物理的な制約はもちろんありますが、子どもが小さい間の一時期だけのことと割り切って楽しむことにしています。研究の推進は子育てだけでなく、個人的、社会的な諸々の事情に影響を受け得ますが、その時々でのシステムの最適化や、柔軟性、周囲との対話の積み重ねで乗り越えていけると思っています。

高校生へのメッセージ

研究の過程は、山登りや探検に似て、苦しくもありますが、心底ワクワクします。多くの人と議論を重ねて研究構想を練り、実験データと様々な角度から向き合う中で、初めて見えてくる世界があります。研究を通じて、世代、言語、文化を超えて面白さや感動を分かち合えるのは、とても幸せです。研究に限らず、情熱を持って地道に取り組めば、道は自ずと拓けるはず。失敗を恐れず、やりたいことに積極的に挑戦してみてもいいと思います。

ESSENTIAL THINGS

自然の中の散歩

時間を見つけて、大文字山や鞍馬山、鴨川や京都御苑などを家族で散歩するのが楽しみです。家族と話しながら、季節ごとに移り変わる生き物を見ることもできて、とてもいい気分転換になります。通勤途中に眺める、野の花や鳥などにも癒やされています。



私のKey Item

キイロショウジョウバエ

バナナなどの匂いに誘われて家の中にも入ってくることもある、眼の赤い小さなハエです。100年以上前から遺伝子の研究に用いられ、私達ヒトとも、遺伝子や器官の働きがよく似ています。おとなしくて可愛いです。



佑佳子先生のある1日

- 06:30 起床、朝食
- 08:30 保育園送り・出勤
研究・学生指導・ミーティング・セミナーなど
- 17:50 保育園迎え
- 18:30 帰宅、夕食、家事
- 22:00 就寝

子どもの体調不良などのリスクに備えて、何でも早めに取り組むように心がけています

食事の下ごしらえは週末にまとめて。家事育児は夫や上の子にも、とても助けられています。

今は幅広い分野を勉強中。いつかは専門分野をリードする研究者に。

工学研究科 助教 / 澤田 茉伊 (SAWADA Mai)

さわだ まい 京都大学院工学研究科 助教
 京都大学工学部 卒業→京都大学大学院工学研究科 修士課程修了→大成建設株式会社→京都大学大学院工学研究科 博士課程修了→同大学院工学研究科 助教
 【研究テーマ】地盤工学に基づく歴史的地盤構造物の保全

紆余曲折を経た研究者への道のり

私が高校生だった当時はオープンキャンパスがなかったため、高3のある日曜日、吉田キャンパスにあった地球工学科の建物を見学に行った記憶があります。工学部を選んだ理由は、当時は二次試験で苦手な国語がなかったからです。あまり大学のことは知りませんでしたが、独特な入試問題、特に数学は難問が並びますが、完璧に解答できなくても考えた過程が重視される点がユニークで、じっくり考えるタイプの自分には合っていると思いました。入学後3回生で本格的に始まった専門分野の基礎科目の授業では、地盤工学の科目が気に入り、班ごとの実験科目は全部自分がやりたいくらいでした。その願いが叶い、4回生では地盤系の研究室に配属が決まり、卒論では地下室に籠って毎日実験をしました。研究室での指導は厳しかったですが、アットホームで、学生同士の仲が良く、修士課程を修了するまでの3年間を楽しく過ごすことができました。修士課程を修了した後、実務における研究に携わってみたいと思い、ゼネコンの研究所に就職しました。4年半でいくつかの業務に携わりましたが、自分に自信が持てず、行き詰まりを感じていました。私には向いていなかったのだと思います。転職を考え、修士時代の恩師に相談したところ、もう一回勉強したら?と助言をいただきました。自分が変わるしか解決法がないことを、先生は見抜いていたのだと思います。正しい選択だったとはいえ、リーマンショック、東日本大震災と続いた時代だったこともあり、会社を辞めて博士課程を受験するには、勇気が必要でした。ですが、3年後に泣いても笑っても勉強は無駄にはならない、何より自身が変われる、そんな気がしました。博士課程で所属した研究室の先生は、母校に戻った変な卒業生を快く受け入れ、指導してくださいました。自分の意志で入学したものの、将来への不安感から、なぜ自分だけこんなやり直しをしているのだろうと情けなく思うこともありましたが、しかし、3年間しかないのにこんなことを考えている暇はないと気づき、必死で勉強しました。今思えば、先生方や家族の多大なサポートにより、やり直すチャンスが得られた私はとても恵まれていたと思います。自分なりに研究を進めて先生と議論を繰り返す中で、少しずつ研究を計画・推進する力が身につくと、研究がどんどん楽しくなりました。このような紆余曲折を経て、プロの研究者になる決意をしたときには、もう32歳になっていました。

未来の人たちに古代の景色を見てもらいたい

博士課程で大学に戻ったとき、せっかくなので大学でしかできない研究をと思い、古代の地盤構造物を対象としたテーマを選びました。研究室の指導教員だった先生が、地盤工学の専門家として奈良県明日香村の高松塚古墳などの保全に貢献し、地盤工学×遺跡保全の研究分野をリードされていたことにも影響されました。高校生の頃から、世界遺産のテレビ番組を見たりしていたので、潜在的に遺跡に興味があったのだと思います。最近では、百舌鳥古市古墳群が世界遺産に登録されるなど注目を浴びていますが、築造から1300年以上の間、地震や降雨を受けて危機的な状態にあるものも少なくありません。損傷を受けた古墳を未来に受け渡すためには、修復が必要ですが、外観だけ元通りにしてもかえって状態が悪くなることもあります。損傷のメカニズムを明らかにして、科学的根拠に基づいた方法で修復することが重要です。未来の人たちが遺跡を通じて、古代の景色を見ることができるよう、研究者・技術者として保全に貢献し、「〇〇の研究といえば澤田」と名前が挙がるような、その分野をリードする研究者を目指していきたいです。

地道な一歩の積み重ねが自信につながる

研究者は、比較的フレキシブルな時間の使い方ができますが、毎日同じ時間に寝起きし、仕事を始め、終わることにしています。そうすると一日の目標が立てやすく、制限時間内に達成するためには、どのような順で取り掛かれればよいかなど、自然と計画できます。達成できずに悔しい日も多いですが、達成できた日は気分爽快です。私はあまり要領が良くなく、努力しなければできないタイプなので、研究は一歩ずつしか進みませんが、着実な一歩がモットーです。大きな研究ビジョンを掲げていると、日々は小さな困りごとの解決に一喜一憂する連続です。期待した実験結果が出ないときには、原因究明のために装置や手順をひとつずつ丁寧に検証し、修理や見直しをします。回り道のように、疎かにした一歩は、後でかなりの確率で困ったことになり、大きな手戻りが出てしまいます。自信をもって研究成果を発表するためには、地道な一歩の積み重ねが不可欠だと思っています。



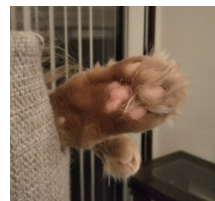
高校生へのメッセージ

私は研究者になるまでに遠回りしましたが、社会経験を経て、学問がしたいと強く思う気持ちが生まれたときに、博士課程で学ぶ機会を得る経緯がなければ、研究者になれなかったと思います。大学・大学院では、自発的に学ぶ姿勢があれば何も得られませんが、好きなことを見つけ、自ら学ぶ姿勢があれば可能性はどこまでも無限大です。

ESSENTIAL THINGS

癒しの存在

3年前に怪我をした野良猫を保護しました。猫は、「毎日同じ」に強いこだわりがあり、変化を嫌います。一方、人は変化を好み、進化し続ける必要がありますが、思い通りにいかず焦燥感にかられるときは、「毎日同じ」を満喫している猫を見ていると癒されます。



私のKey Item

いつも着ている作業着

広い実験室で探し回らなくていいように、ポケットにはいつも野帳、マジック、ビニールテープ、メジャーなどが入っています。以前は、関数電卓やデジカメも入れていましたが、スマホで代用できるようになり助かっています。



茉伊先生のある1日

- 06:20 起床 身支度をして出勤
- 08:40 研究室に到着
- 09:30 実験室で作業
- 12:00 研究室のスタッフ・学生で揃って食堂で昼食
- 13:00 授業準備・レポート採点
- 17:00 実験データ整理・解析
- 19:00 研究室を出る
- 20:40 帰宅
- 21:00 夕食・入浴
- 00:30 就寝

通勤時間は1時間半!



好きこそものの上手なれ。しなやかに大胆に、調和のとれた研究を。

生存圏研究所 助教 / 田鶴 寿弥子 (TAZURU Suyako)

たづる すやこ 京都大学農学部 卒業→京都大学大学院農学研究所 修士課程修了→同大学院農学研究所 博士課程修了
→同大学生存圏研究所 博士研究員、ミッション専攻研究員→同研究所 助教
【研究テーマ】東アジアにおける木質文化財の用材観のデータベース化と学際的研究への応用、新規樹種識別手法の開拓

ターニングポイントとなったカナダの自然

幼少の頃より、自然豊かな田舎でカエルや虫の鳴き声を聞きながら、山と空を毎日眺めて過ごしてきました。泥水や木の葉のにおいをかぐと、大好きだったおままごのことが今でも鮮明に思い出されます。父が務めていた近くの博物館には古い土器や遺物が並び、それを研究者が一つ一つ調べて歴史の側面を明らかにしていく、そんな行程が幼い自分にはとてもキラキラとした光景に映りました。自分の世界に浸るのが好きだった私ですが、小学生の時に両親が送り出してくれたカナダとアメリカへの体験留学は、自分にとって大きなターニングポイントとなりました。まさに井の中の蛙、大海を知らず。飛行機から見た初めての景色と、雄大なカナダの自然に圧倒されたのを今でも覚えています。その頃から、「知らない世界へ飛び込んでいきたい」という気持ちが少しずつ芽生えてきたのかもしれない。高校時代を思い返すと、笑顔で楽しそうに物理学の実験をくりかえす恩師の姿と言葉が印象に残っています。京大を受けようかなと相談したとき、笑顔で思い切り背中を押してくれたのもその先生でした。京大入学後は、図書館や古本屋さんで見つけないような本を読みあさりました。父の仕事の関係で実家にも膨大な書物が山積みになっていたからか、本の香りを嗅ぐと心が落ち着く、そんな大学生でした。本にまみれた生活をしてきたある日、古本に挟まれた古びた一枚の紙きれを見つけました。ドラマのようですが、そこには、【この本を手にした方へ】とあり、【やりたいことをやるべし】と書かれていました。分厚い本におそらく長い間挟まれていただろう、どこの誰かも知らない先人からのメッセージは、当時、壁にぶつかり悩んでいた私への大きなエールになりました。

木を取り巻く世界に魅了されて

学部生のころ、当時の木質科学研究所で、文化財の樹種を科学で調査する研究が行われていることを知り、研究室の扉をたたきました。シルクロードの遺物調査、歴史的建造物や木彫像の調査、新しい識別手法の開拓、年輪の同位体比研究など、木が教えてくれる様々な情報に夢になりました。特に、顕微鏡でみる木材組織の美しさと複雑さに魅了されました。好きこそものの上手なれと言いますが、私はなにより木を取り巻く世界が大好きです。巨木を見に行っはしばしたずんで、木の歩んできた歴史に思いを馳せる時間も大好きです。これまでの研究で、様々な木質文化財に出会ってきましたが、何十年何百年と生きてその時代の歴史を年輪に刻んできた木が、人の手により選別され加工され、文物として

た新しい歴史を生きていく、その過程が私を魅了してやみません。そういった木に触れ、顕微鏡を通してその歴史を紐解くたび、レンズの向こうで古の大工や仏師たちがいたずらっぽく笑っているのが見えるようです。私の研究は、木を軸に、美術史、考古学、建築史、民族学といった研究者だけでなく、材木店、数寄屋大工、彫刻家といったプロフェッショナルな方たちともに行きます。木を見て森を見ずとならないように、様々な木の専門家たちの言葉や教えをしっかりと吸収して、しなやかに大胆に、調和のとれた研究をすすめたいと思っています。大好きな木やたくさんの人の手で守られてきた文化財と真摯に向き合い、若い世代や社会に、もっともっとおもしろいことを還元できるような研究をしたいと考えています。

「母」も「好きな研究」も両方できる有難さを噛みしめて

仕事で海外に行く機会が増え、家庭や子供を持つ同じ立場の様々な国の女性研究者らとの関わりも増えました。日本に置いてきた幼い子供達のことを毎日心配している私に言われたのは、「母親がいない間にこそ、子どもは何かを得て立派に育つよ」という言葉でした。そして、「子どもはもちろん大切だけれど、子どもには子どもの人生があり、母親の頑張りばかりと子どもに伝わる、あなたはあなた自身の人生を尊重しなさい」という励ましの言葉も。女性・男性関係なく、一人の人間として、自分の人生をいかに大切に生きるか、そのような観点からの言葉が、とても強く心に響きました。やはり共働きのとはいえ、今の日本の社会構造では女性が家事育児、特に「名もなき家事」に費やす時間は長いように思います。自己嫌悪に陥ったりすることも多々ありますが、もとより私は完璧な女性(妻)ではなかったからと自分に言い聞かすことにしています。疲れていても研究のことを考えるとウキウキしますし、子どもから「お仕事がんばってね」と書かれた手紙を貰えると心癒れれます。平日は子どもたちとゆっくり関わることができず、また出張で家を空けることもあるので、日頃の罪滅ぼしの意味もこめて、子どもたち(もちろん夫も)の誕生日やイベントには、お手製ケーキを焼いてお祝いすることにしています。「母(妻)」も「研究者」も両方させてもらえるという有難さを噛みしめて、今を大切に、支えてくれる家族、双方の両親、そして職場の人々に感謝しながらじっくりと研究を続けていきたいです。



高校生へのメッセージ

私は、順風満帆でスマートな人生を歩んできたわけではありません。恩師や両親、家族が広い心で許してくれて、寄り道や回り道をしたおかげで、不器用ながらようやくたどり着いた「今」というとても幸せな時間があります。過去を振り返ると、いろんな人に心配や迷惑をかけたこともあります。若い頃に寄り道や回り道で得られた様々なことが自分の糧となり、度胸にもなっていることに気づきます。今の時代、最短距離・最短時間で効率的に目的地へいくことがよしとされている風潮ですが、たまには遠回りしたり、寄り道したりして、時にずっこけて、思いがけない出逢いやかけがえのない経験を体験するのもいいかもしれません。

ESSENTIAL THINGS

鴨川で過ごす時間

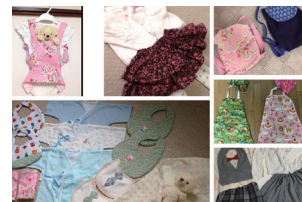
走り回る子供らを横目に、私はお得意の四つ葉のクローバー探しに夢中です。



私のKey Item

深夜のミシンがけ

仕事に行き詰まったときはミシンに向かいます。仕事のことを忘れ、裁縫に没頭することで、ストレスが発散できるだけでなく、子供たちのためのかわいいグッズなどが出来て一石二鳥です。海外に行ったときには、「深夜のミシンがけ」用のフリップクオリティを探すのも楽しみです。



寿弥子先生のある1日

- 06:00 **起床 朝食を作り子どもを起こす**
- 09:00 **出勤 実験や論文執筆など**
- 18:00 **学童と保育園へのお迎え、速攻で夕食用意**
- 19:00 **お風呂、学校の準備の手伝い**
- 20:00 **夫帰宅**
- 21:00 **子ども達就寝**
- 22:00 **翌日の夕食作り置き**
- 23:00 **やり残した仕事の片付けやメール返信**
- 24:00 **就寝**

息子の生き物談話に耳を傾けながら娘と宿題

絵本を読みながら睡魔との闘い

気がついたら歩んでいた研究者の道。今は研究と育児で 毎日フル稼働中。

医学研究科 助教 / 鳥井 美江(TORII Mie)

とりのみえ 三重大学医学部 卒業→同大学大学院医学研究科医科学専攻 修士課程修了→同大学院医学研究科生命医科学専攻 博士課程修了
→京都大学医学部附属病院 看護師(三重大学大学院医学研究科リサーチアシリエイト)→京都大学学際融合支援センター(LIMS) 特定助教→同大学大学院医学研究科 助教
【研究テーマ】 自己免疫疾患患者におけるサルコペニア、フレイル、カヘキシアのリスク要因と生化学評価法の確立

受験・部活・イベントで充実した学生生活を満喫

進学した高校は入学直後から大学受験に向けた授業が詰め込まれており、夏休み、冬休みには奈良県吉野の山奥で合格するまで就寝できない学習合宿があるなど受験勉強一色でした。高校3年間は同一クラスで、クラスメイトと勉強したり遊んだり大半の時間を一緒に過ごしました。高校時代苦楽を共にした友人達とは進路は様々ですが、今でも年に1回は担任を困んで飲み会をしています。大学進学後は、受験勉強から解放された反動で、学業よりも課外活動を満喫する日々を過ごしました。部活は医学部ゴルフ部と留学生支援サークルに所属し、毎月1日には朝4時から伊勢神宮に向かい、名物の朔日餅と月替わりの朝粥を食べ、1限目の講義は睡魔と戦うのが習慣でした。留学生支援サークルでは、いろいろな国の留学生とホームパーティなどで交流し、仲良くなった友達の国を訪ね歩きました。また、奈良県の伝統行事・観光協会のイベントや、大阪今宮戎神社の福娘としてオリンピック招致活動や宝恵籠行列、十日戎に参加するなど、学外の方々との交流を通して多くの貴重な経験をさせていただきました。大学生生活を十分に満喫した後、卒業論文(ICUIにおける褥瘡発生リスク)に取り組む中で「褥瘡(炎症)はどのように起こるのか?」ということに興味を持ち、大学院への進学を決めました。当時の三重大学看護学科は博士課程がなく、進学に臨床経験が必要だったことから、修士博士と一貫して学べる医学系研究科に進学し、免疫学を専攻しました。大学院では実験動物を用いて抗酸化因子チオレドキシン(TRX)の気道炎症抑制メカニズムについて研究し、医学博士号を取得しました。

患者さんに還元できる研究を目指して

博士課程修了後は、京大附属病院の免疫膠原病内科に看護師として就職する一方で、母校のがんワクチン治療学講座のリサーチアシリエイトとして研究活動を継続し、TRXの大腸がん抑制メカニズムについて研究していました。基礎医学研究はとても楽しく充実していたのですが、免疫膠原病内科の患者さんの日々のケアを通して、患者さんの苦勞や思いに触れ、患者さんが少しでも楽に病氣と付き合っていくには何が必要かと考えるようになり、ヒトを対象とする研究をしてみたいという気持ちが強くなってきました。2年半ほど兼業生活を送ったのち、縁あって京大国際融合支援セン

ターの特定助教に採用され、サルコペニアやフレイルなどの老年医学分野の研究室で研究中心の生活をするようになりました。着任後は病院で一緒に働いていた先生に関節リウマチの共同研究に誘われ、関節リウマチ患者におけるサルコペニアについて研究するようになりました。大学院進学時は研究者になる事は全く考えていなかったのですが、目の前にあることに夢中になり、気がついたら研究者の道を歩んでいました。現在、リウマチセンターが実施しているKURAMAコホートで約500名のリウマチ患者さんを対象に測定や問診などを行っています。辛い症状を抱えながら研究に毎年協力してくださっている患者さん達に心より感謝し、関節リウマチをはじめ自己免疫疾患を抱える患者さんの日常生活に少しでも還元できることを目標にしています。

恵まれた環境のもとで研究と家庭を両立

3人の未就学児を抱えての毎日は本当に忙しくて大変ですが、家族との時間は息抜きにもなり仕事にも張りがでます。週末は単身赴任の夫の4日分のお弁当を作りつつ、平日分の夕食の下ごしらえ。掃除は平日の負担を減らすように土曜日に全部済ませ、家電をフル活用。子どもの保育園の用意も週末に1週間分まとめて準備しておきます。このような感じで毎日があっという間に過ぎていきますが、朝と晩に1回以上3人の子ども達を抱きしめるようにしています。夫とはお互いの研究の話をすることも多く、平日毎晩電話で話し子供の成長を共有しています。週末は夫が率先して家事(料理以外)や育児をしてくれますので精神的にもとても助かっています。職場では、上司や共同研究者も育児をしながら研究しているため、仕事以外の相談もしやすく、環境は非常に恵まれていると感じます。正直なところ、自分ひとりでは回りませんので、両親には子どものお迎えや出張時のサポートをお願いすることもあります。みんなにサポートしていただき成り立っている生活ですので、サポートしてくれる方々への感謝を忘れず、家族との時間も大切にしながら、今まで以上に教育や研究に取り組むことを目標としたいと思っています。



高校生へのメッセージ

私は高校時代の成績は良い方ではなく理想と現実と悩んだこともありました。学生の頃は試験の点数で他人と比べてしまいがちですが、自分のやりたいことや目の前にある課題を大切に一生懸命取り組んでいた道が開けることがあるかもしれません。

ESSENTIAL THINGS

週末の家族の時間

週末は家族でお菓子作りや庭で泥遊びをしています。母の日には子どもから、家族全員の顔を描いた絵をプレゼントされ、家族の時間を大切に思ってくれているのだと実感しました。



私のKey Item

Refa

クリスマスに夫に買ってもらいました。毎日子育てに追われ、自分の事は後回しになっていましたが、今年こそは出産前の体型を目指し、運動して減量に励みます...



美江先生のある1日

- 04:30 起床 朝食と夕食の準備をしながら仕事
- 06:30 子どもを起こす
- 08:30 子どもを保育園へ預け、大学へ
- 09:30 研究開始
- 19:30 帰宅(祖父母がお迎えに行ってくれている) 夕食(洗濯機ON)
- 20:00 入浴(洗濯物を干す)
- 20:30 子どもとドリル、絵本よみかせ
- 22:00 子どもと一緒に就寝(夫と電話)



京大で学ぶ女子特別座談会

学問はもちろん、学生生活も存分に楽しむ院生1名、学部生2名。

立場は違えど京大に対する思いは同じ。

京大を目指したきっかけや、今後の目標について語っていただきました。



● 京大を目指したきっかけは？

Y 大学卒業後、ある団体でホームレスと呼ばれる人びとと共に働いていたのですが、「人はどうしてホームレスになるのだろう」という疑問が常に胸にありました。その疑問をじっくり考えてみたくなり、退職した後、京大の社会学のゼミを聴講しました。これが毎回、目からポロポロ鱗が落ちるような授業で、以降本格的に京大を目指そうと考えました。

K 京大を目指そうと決めたのは、高2の秋頃。もともと美大志望で、「芸術を通して人々の価値観を変えたい」と思っていたのですが、美術一本でやっていくよりも、系統立った知識を身につけて、もっと総合的な視点を持てる人間になりたいと思うようになりました。京大の自由な雰

囲気には憧れがあったし、文理関係なく広い分野に首を突っ込める「総合人間学部」が自分に合っていると考えました。

F 私は、高1の時に受けた最初の模試がまたまいい成績で、先生に東大か京大を真

剣に目指さないかと声をかけてもらったことがきっかけです。地方で、なかなか国立大学出身者がいない環境でしたが、偶然にも1人いた京大出身の先生の授業がとても分かりやすく感動して、憧れを抱きました。本格的に京大受験を決意したのは高2の2学期です。

● 京大生になってみてどうでしたか？

Y 学問のおもしろさを知りました。また、研究の第一線にいる先生方と直接語り合えることに大きな魅力を感じています。クラスメートも、それぞれのやり方で試行錯誤しながら自分のテーマを追求していて、とても刺激を受けます。

K 私は高校まで全くお洒落に興味がなく、「京大なら自分と同じような女性もたくさんいるだろう」と勝手に思っていたので、大学に入ると周りの女の子がみんな綺麗にメイクをしていて少し焦りました(笑)。あと、京大はよくも悪くも放任主義なので、何も行動を起こさなければ何も得ることができません。勉強も人間関係も、積極的に自分から

掘みに行く姿勢が必要だと感じています。

F 京都はとにかく住みやすく、自分の時間も友人との時間もとても楽しいです。今はカフェ巡りに夢中で、行きたいカフェリストは約300弱。授業では、1回生のときに受けた少人数制の「ILASセミナー」が最高でした。教授とも直接話することができ、本格的に研究に関わっている方々から感化されることが多くありました。このセミナーで光などによる解析に興味を持ち、今の専攻へとつながっています。

● 勉強とサークルなどの両立で工夫していることは？

Y 勉強以外で打ち込めるものがある方が、両輪でうまく回っていく気がします。基本的には学業メインの生活ですが、煮詰まってきたら、友人とおしゃべりしたり、料理をしたり、歌ったり、猫に遊んでもらったり…。学業以外の楽しみを持つことで、オン/オフの切り替えができています。

K 休み時間や放課後に友達と楽しく話をしたり、書いたレポートの内容を共有したり、関心のある分野について議論したり。特にサークルは楽しくて、ついだらだらとのめり込んでしまいがちなので、勉強時間とサークル活動とのメリハリをつけることは、とても大切です。

F 勉強ももちろんですが、現在ダンスサークルに所属しているので、ダンスも頑張りたい。一人暮らしでどちらも際限なくできてしまうので、自宅外で練習や自習をするようにして、施設の利用可能時間などの外的な要因で自分の行動をうまく制限しながら両立しています。

● 今後の夢や目標を聞かせてください。

Y ゆっくりとでも、細々とでも学びを続けていくことで、考えが深まったり、広がったりと思うので、まずは「学ぶことをやめない」というのが目標です。

K 学部ではメディアを中心とした社会学を学び、卒業後は法科大学院に進学して弁護士になりたいです。SNSでの誹謗中傷や報道のトラブルなど、現代社会で拡大しつつある問題に対処できる弁護士になり、よりよいネット社会を作っていくのが目標です。

F 工学部で学ぶ内容にはもちろん、教育関係やデザイン、ダンスなど多くのことに興味があります。自分の興味があるものに触れることを通して、たくさんのごことを経験していきたいです。



八峯 加容子さん **Y** 文学研究科博士後期課程2年生

高校生へ 私はかなり遠回りをして京大にたどり着いたのですが、どのタイミングで来てもおもしろい何かが転がっている場所です。まだ進むべき道がわからないという人も、立場や年代の違う人と話してみたり、なぜか気になってしまうことを書きとめたりすると、そこから道が開けることもあると思います。



川原 桜さん **K** 総合人間学部2年生

高校生へ 京大はとても楽しく、刺激にあうところに自分から飛び込み、降ってきたようにすれば、今まで経験したことのないようになります。まずは学校の勉強をしっかり頑張力を身につけることが大事。ただし勉強だけでなく、将来やりたいことは何なのか考えなが

ふれています。面白そチャンスを見逃さないような新しい世界が広がり、自分の頭で考えるだけでなく、自分が好きなら過ごしてください。



古原 百華さん **F** 工学部2年生

高校生へ 京大には、興味関心が掻き立てられることがたくさんあります。受験勉強に関しては、私は現役のときに自分一人でもがいて努力したことも、浪人して予備校で友達と切磋琢磨したことも、一つも無駄なことだとは思っていません。多くの勉強法や参考書があふれていますが、大切なのは入試当日に確実に点数を取ること。そこにこだわって基礎を盤石にすることで合格が着実に近づいてきます。自信をもって努力してください。



参加すれば、京都大学がより身近に！ 京都大学を「見る・知る・体験する」イベントがいろいろ！

今年度は、新型コロナウイルスの流行により、ほとんどのイベントがオンライン開催となりました。大学の授業もWebで行われ、いつもは賑わっている学内がひっそりとしています。



女子中高生のための関西科学塾

2020年度はオンライン開催となりました。

「女子中高生のための関西科学塾」は、関西の大学が中心となり女子中高生を対象に理科実験教室などを行う企画で、2006年から開催しています。第15回目となる今回は神戸大学を幹事校とし、京都大学、大阪大学、奈良女子大学、大阪府立大学、大阪市立大学、その他協賛企業などが参加しました。
<http://www.kansai-kj.org/>

久能賞

21世紀における地球規模の課題を解決し、よりよい世界を目指し、社会に貢献したいという高い志を持ち、科学・技術分野において自ら定めた独創的な夢を持つ意欲のある本学女子学生を支援する制度。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/Recognition/kuno_award

女子高生・車座フォーラム 2020年度はオンライン開催となりました。

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらうため「女子高生・車座フォーラム」を企画しています。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのかなど、さまざまな疑問に学生や研究者が、お答えします。興味のある方は、ぜひセンターホームページをご覧ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/rooting/kurumaza/>



京大を知ろう！オープンキャンパス

2020年度はオンライン開催となりました。

京都大学の教育・研究、学生生活を知り、大学の理念や学風を肌で感じることができるイベント。総長の講演を聞いたり、希望の学部 of 模擬授業に参加したり、研究室に訪問して先生の話聞くことができます。
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/open/>

おもしろチャレンジ

既製の留学ではなく、本学学生の主体的に海外で学んでみようという意欲を後押しすることを目的に、奨学金を支給する体験型海外渡航支援制度。
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student_3/types/program2/omoro_challenge/index.html

たちばな賞(優秀女性研究者賞)

学術上、優れた研究成果を挙げた京都大学の若手女性研究者や博士課程学生を、大学として讃える制度。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/resource/grant/tachibana>

理系学生・高校生応援イベント

描け！未来予想図

日経ウーマノミクスプロジェクト

日経ウーマノミクスフォーラム 2020バーチャルシンポジウム



主催/日経ウーマノミクス・プロジェクト実行委員会(日本経済新聞社)

協力/大阪大学、岡山大学、京都大学、神戸大学、徳島大学、大阪市立大学、大阪府立大学、兵庫県立大学、関西大学
協賛/三洋化成工業株式会社、住友電気工業株式会社、東和薬品株式会社

後援/関西経済連合会、大阪府、関西広域連合、関西女性活躍推進フォーラム、関西文化学術研究都市推進機構、滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、京都市教育委員会、2025年日本国際博覧会協会、関西SDGsプラットフォーム
日経ウーマノミクスフォーラム2020バーチャルシンポジウム <https://www.nikkei-ad.co.jp/nwfp20/index.html>

理系女子学生・大学院生チーム



当イベント協力大学の理系女子学生・大学院生が産業界や大学・高校生との交流の要として、イベント全体を強力にサポートします。

プレゼンテーションコンテスト 9/30Ⓢ 15:00~

高校生WEB座談会 8~9月

Cheers! なんでも相談室 8~9月

人間・環境学研究科
共生社会環境論講座
博士課程3年
安藤 加菜子さん



今こそ未来に向けた学びが大切です。一緒に考えましょう！

医学研究科
人間健康科学科
博士課程4年
奥本 綾香さん



研究、育児、仕事、全部同じだけ楽しんでいます。

理学研究科
物理学・宇宙物理学専攻
修士課程2年
円尾 芽衣さん



今は宇宙物理学というロマンチックな研究をしています！

農学部
地球環境工学3年
野本 千鶴さん



学びたい目標を探しながら、日々様々な知識を蓄えています。

総合人間学部
総合人間学科2年
川原 桜さん



ジェンダーと教育について、大学の講義や本から勉強しています。

“「当たり前」より、自分のワクワクを追究して”

京都大学 高等研究院 物質-細胞統合システム拠点 教授 深澤 愛子

性別による向き不向きなんて、そうそうありません。ステレオタイプ的な研究者像や、女性はかくあるべしという雑音には惑わされず、自分の信念や好奇心を追求してください。京都大学は「出る杭は打たれる」ではなく、「出ようとする杭ほど置いていかれる」場所。自分の人生ですから、自分がワクワクして夢になれることを見つけて、追究して、存分に突き抜けてください。みなさんは無限の可能性を秘めています。世の中の「当たり前」に押し込められることなく、未来へ羽ばたいてもらいたいと強く願っています。

